

乗客本位のモットーを無視し

矛盾した王子電車會社の隠謀暴露

社會文化の動脈として、重大なる責務を負ふて發達すべき我が交通機關の美名のもとに私慾を肥し、是れを阻害する恐るべき野心家の存在する事實は誠に社會の爲め由々歎問題である。

彼等は此の好策を以て利慾の前には純眞なる乗客諸氏を欺瞞と犠牲にして尙平然たるものがある。

即ち、會社はその政策を行はんとして、彼等一身のものを刈り集めることに手段を選ばず自己擁護の爲めに、人件費節約を口實に或ひは、新監督の採用を高調し、その勢力下に置かんとするは野望の奈邊にあるかを察知することが出来る。

まづ先に我等従業員に監督試験を行ふべしと稱し其の受験資格年限を在勤三ヶ年以上の者に限ると示した。従來は六ヶ月以上を以つて其の資格を有せるにも拘らず斯の如き二年六ヶ月に餘る所の資格繰上こそ其の第一歩であつた。而して難問題を我等に與へ成績の發表をもせず成績の劣悪なりとのみ非難し直ちに新監督の採用を斷行した。そして従業員の向上心を阻害した。

天降り式

新監督の採用が如何に乗客諸氏に直接影響をなしたか、あるかは餘りにも自明の理である。

會社は人件費節約の名によるも其の事實は我等の向上を阻害し運輸事業の發達と使命とを没却せるものである。

人件費節約と云へる會社當局の政策の如何に無盾せるかは左の數字に依り一例を掲ぐ

新輸入監督	一ヶ年間支出	七、七五〇、〇〇
現業員より採用せる時	一ヶ年間支出	六、五四五、〇〇
差額		一、二〇五、〇〇

斯の如き支出を何れかに於てか補充すべく茲に減車政策或るひは單車の使用を以つて之にアテる外に道なく悲鳴の一策を講じたのである。

我等は去る大正十五年要求書の中に最も重要なりと認む單車の徹廢を叫びし事あり

當時會社の回答に曰ク「來年（昭和貳年一月より之を改める）」と言明しながらも最早一ヶ年にもならんとする今日に於て未だ之を實施せざるなり

然も現在王子電車の車輛數はボギー車のみにより運轉車輛數を有すのみならず新造車は續々として製造せられ居るを強ひて彼の古物の不完全不潔にして不快極りなき單車を使用する事實こそ即ち人件費節約に因める乗客本位のモットーを無視したものである。

我等は茲に運輸理事者が公衆に對する誠意なき事を憂ふと共に、従業員の向上心を阻害した其の不當と不正を責むると共に過去に於ける要求に對する回答の即時實行を促すものである。

茲に是を天下に發表し正しき批判と聲援を希ふものである。

昭和貳年十一月 日

日本交通總聯盟
自治會郊外部

王子支部